

住民総参加の福祉のまちづくりへ向けて  
地域グループの役割

**児童生徒が  
できること**

児童生徒については、彼らが地域に対してどんなことができるのかは当然取り上げていますが、一方で、子どもの福祉問題については、あまりにも取り組みが遅れているので、それも併せて述べることにしました。

子どもを主体者としてどう扱うか、子どもの自立をどのように進めていくのか、子どもを本当に人間として扱っているのか、いずれもまだまだ課題がたくさんあるのです。

## <目次>

### 1.児童生徒の活動のチャンス／4

- (1)「学校」が身近な「社会」／5
- (2)家庭の一員としての役割も／6
- (3)「隣人」としての役割も／7
- (4)大人の活動グループに「入れて！」／8
- (5)「子ども」という武器を生かせ！／8
- (6)「学生(生徒)」という持ち味を生かせば／9

### 2.「子どもにやさしいまちづくり」の留意点／13

- (1)高齢者にばかり関心が集中。子どもは置き去り／13
- (2)まずは子どもを集めて支え合いマップづくりを／13
- (3)子どもの問題は子どもが考え、子どもが解決する／13
- (4)責任ある行動ができるように自立訓練を／14
- (5)子どもを大人の地域活動に参加させよ／14
- (6)子どもの目線でまちをつくり直す／14
- (7)受験対策、就職対策の前に1人1人の能力開発を／14

### 3.「子どもが主役」をどう実現する？／15

- (1)「子ども発」を支援するとは？／15
- (2)いじめ問題は子ども自身の手で対処／16

### 4.子どもの問題は子どもの手で—「子ども発」をどう支援する？／17

- (1)子どものことは子どもが考えるもの。「子ども発」の発想／17
- (2)子どもたちで自助グループづくりを／18
- (3)子どもの手で「自分たちの問題さがし」／20

### 5.子どもの可能性を伸ばすには？／23

- (1)子どもの能力開発センターを作ったら？／23
- (2)個人別能力開発カード／25

### 6.子どもを地域活動に参加させるには？／26

- (1)大人のグループ活動に子どもも参加を／26
- (2)大人の活動の子どもバージョンを／27
- (3)子ども向け活動を子どもの手で／28

### 7.「子どもにやさしいまち」はどう作る？／30

- (1)子どものための1%運動—せめて1%子どものことを考えよう／30
- (2)子どもが選ぶ「子ども110番の家」／31

### 8.子どもの自立教育をどう進めるか？／34

- (1)地域全体を子どもの生活体験センターに／34
- (2)「助けられ上手の子ども」育て／36

# 1.児童生徒の活動のチャンス

児童生徒の福祉活動といえば、いくつかのパターンに限られています。学校での募金活動、地域でのふれあい活動など、変わりばえがしません。しかし、もっと細かく見ていけば、彼等のまわりにたくさん活動チャンスが転がっているのです。

- (1)「学校」が身近な社会
- (2)家庭の一員としての役割も
- (3)「隣人」としての役割も
- (4)大人の活動グループに「入れて！」
- (5)「子ども」という武器を生かせ！
- (6)「学校」という持ち味を生かせば
- (7)子どもの問題は子どもの手でー「子ども発」

## (1)「学校」が身近な「社会」

児童生徒にとって、まず「学校」が身近な社会です。「クラス」だって、そこを社会と考えれば、できることはいろいろあるのです。

- ① 病欠の友だちを励ます
- ② 友だちの悩みを聞いてあげる
- ③ 得意な教科を、苦手な級友に教えてあげる
- ④ 障害のある友だちの送り迎え
- ⑤ 入学したい障害児の受け入れ運動も

| 気になるクラスメート | その子が困っていること | 自分にできること |
|------------|-------------|----------|
|            |             |          |
|            |             |          |
|            |             |          |
|            |             |          |
|            |             |          |
|            |             |          |
|            |             |          |

## (2)家庭の一員としての役割も

「家庭」もまた、子どもにとっては重要な「社会」です。そこでただ「保護」されるだけでなく、できることで貢献する必要があるのです。いまの「福祉活動」は、こういう子どもの足元のテーマに目を向けることなく計画されているようです。

### ①わが家の営みだって立派な「社会」活動だ

- ・ 幼い兄弟の世話をする
- ・ 家事を分担する
- ・ 祖父母を親と一緒に介護する
- ・ ときどき祖父母に会いに行く
- ・ 単身赴任の父を電話で励ます

### ②家庭から社会へ

- ・ いらなくなったものをフリーマーケットに
- ・ ついでに近所の老人の買い物も
- ・ 祖父の死後、車椅子を寄付

### ③親の社会活動と一緒に参加

- ・ 母と一緒に老人ホームボランティア
- ・ 母と一緒に食事の配達

### (3)「隣人」としての役割も

ご近所さんは子どもにとっても隣人。そこで子どもなりにできることがあります。

#### ①隣人の困り事に関わる

- ・ 登下校のついでに高齢者宅のゴミ出しや話し相手
- ・ 飼い犬を散歩に連れて行けなくなった人の犬の散歩を引き受け
- ・ 隣人の留守中に、小さい子どもの遊び相手

#### ②隣組活動に親と一緒に参加

- ・ 回覧板を届ける
- ・ ゴミ出し、清掃活動に参加

#### ご近所の「気になる人」への関わり

| 気になる人                              | その理由                          | 自分にできること                 |
|------------------------------------|-------------------------------|--------------------------|
| ご近所の犬が毎朝うるさく鳴く。                    | 飼い主が一人暮らしの高齢者で、散歩に連れて行かれないから。 | 代わりに僕が連れて行ってあげよう。        |
| 隣の一人暮らしの女性が、回覧板をいつも止めてしまう。         | 訳を聞いたら、「こんな小さな字は読めないよ」。       | ならば僕が読んであげて、次の人に回してあげよう。 |
| 一人暮らしのおばあちゃんが、ゴミ出し（分別）がちゃんとできていない。 | 認知症のようだ。                      | 僕が手伝ってあげよう。              |
|                                    |                               |                          |
|                                    |                               |                          |
|                                    |                               |                          |

## (4)大人の活動グループに「入れて！」

子どもだって地域社会の重要な構成メンバー。とすれば、地域にたくさんできて  
いる大人のグループに子どもも参加していいでしょう。ここにも豊かな活動  
の場が待ち構えているのです。

### ①「子ども」であることで役立つことがある

- ・ 食事サービスグループで「高齢者と一緒にごはんを食べるボランティア」
- ・ 「町内会だより」づくりを分担

### ②ジュニア版をつくったら？

- ・ ジュニア生協、ジュニア農協、ジュニア町内会、ジュニア福祉員、ジュニアポ  
リス(交通安全子どもの会)、子どもヘルパー

## (5)「子ども」という武器を生かせ！

児童生徒は「子ども」であるという特性を生かすことも求められています。子ど  
もという武器とは何か？

### ①高齢者にとって「子ども」は、存在そのものがボランティア

- ・ 食事サービスで弁当にメッセージを
- ・ 「おたより」でおばあちゃんと交流

### ②「お兄ちゃんお姉ちゃん」としての腕

- ・ 高校生が小学生の「おたすけマン」
- ・ 児童館で高校生が指導員
- ・ 子ども会活動の指導員としても
- ・ 保育園で「お兄ちゃんお姉ちゃん」役として
- ・ 地域文庫の管理運営役も



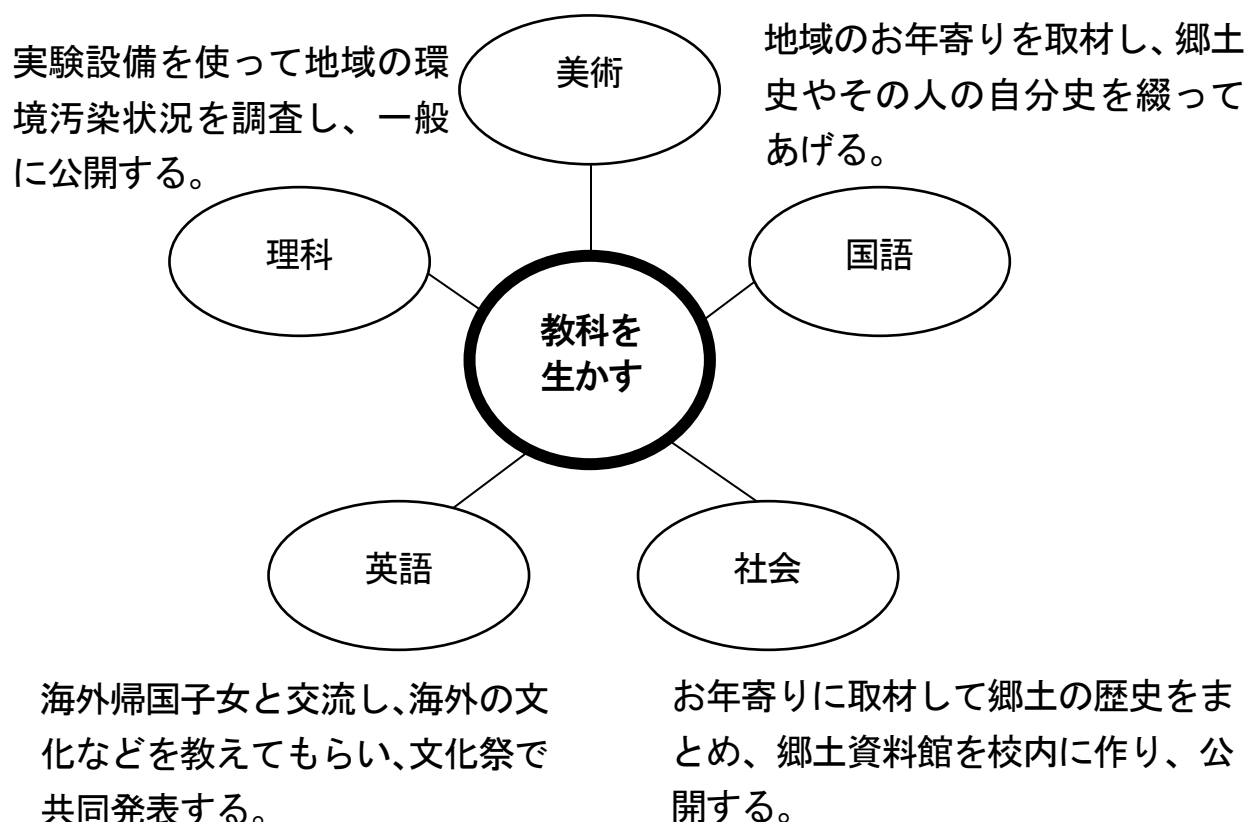
## (6)「学生(生徒)」という持ち味を生かせば

学校活動というと生徒会活動を思い浮かべますが、考えてみれば、各教科、委員会、各種行事、部活など、多彩な活動の場が展開されています。その一つ一つを大事にしていけば、活動のチャンスは無限にといっているほどあるのです。

### ①教科を生かして…

アメリカでは、図工の時間にノコギリやカンナを持って老人ホームに出向き、高齢者一人ひとりに希望のものを作ってプレゼントして帰ってくるといった活動をしているそうです。学習と活動が一体になったあり方もいいものです。

老人ホームや障害者施設に行き、そこ  
絵のテーマを見つけ、入所者の似顔絵  
などを描いてプレゼントする。



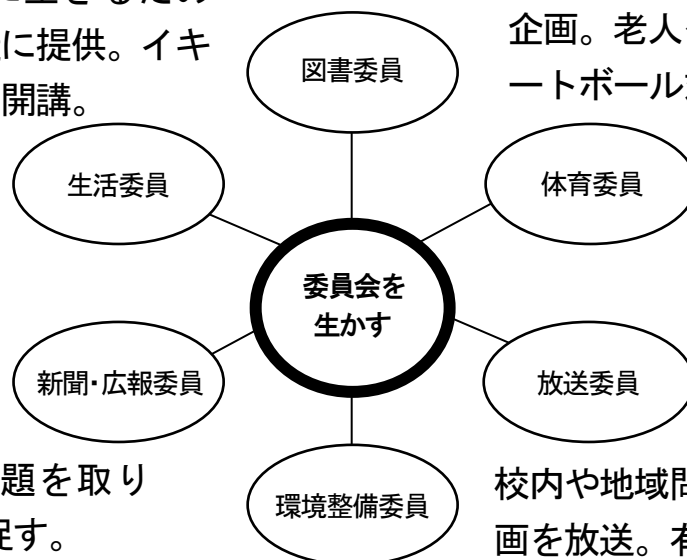
## ②委員会を生かして

学校に各種の委員会ができていますが、これも大きな役割を果たせます。放送委員会が地元のお年寄りから昔話を聞きだし、それを電話会社と提携して、テレホンサービスとして地域住民に聞かせるという活動がありました。こう考えると、校内にボランティア関連の部を作って、そこで活動するという方法もいいが、学校でもともと各自が受け持っている役割を生かすようにすれば、もっと気軽に取り組めるはずです。

地域の子どもたちに童話  
などの読み聞かせを行う。

青年時代を豊かに生きるための  
ノウハウを生徒に提供。イキ  
イキライフ講座を開講。

障害のある人と体育交流会を  
企画。老人クラブとクラスのゲ  
ートボール対抗戦も。



校内や地域の問題を取り  
上げて、解決を促す。

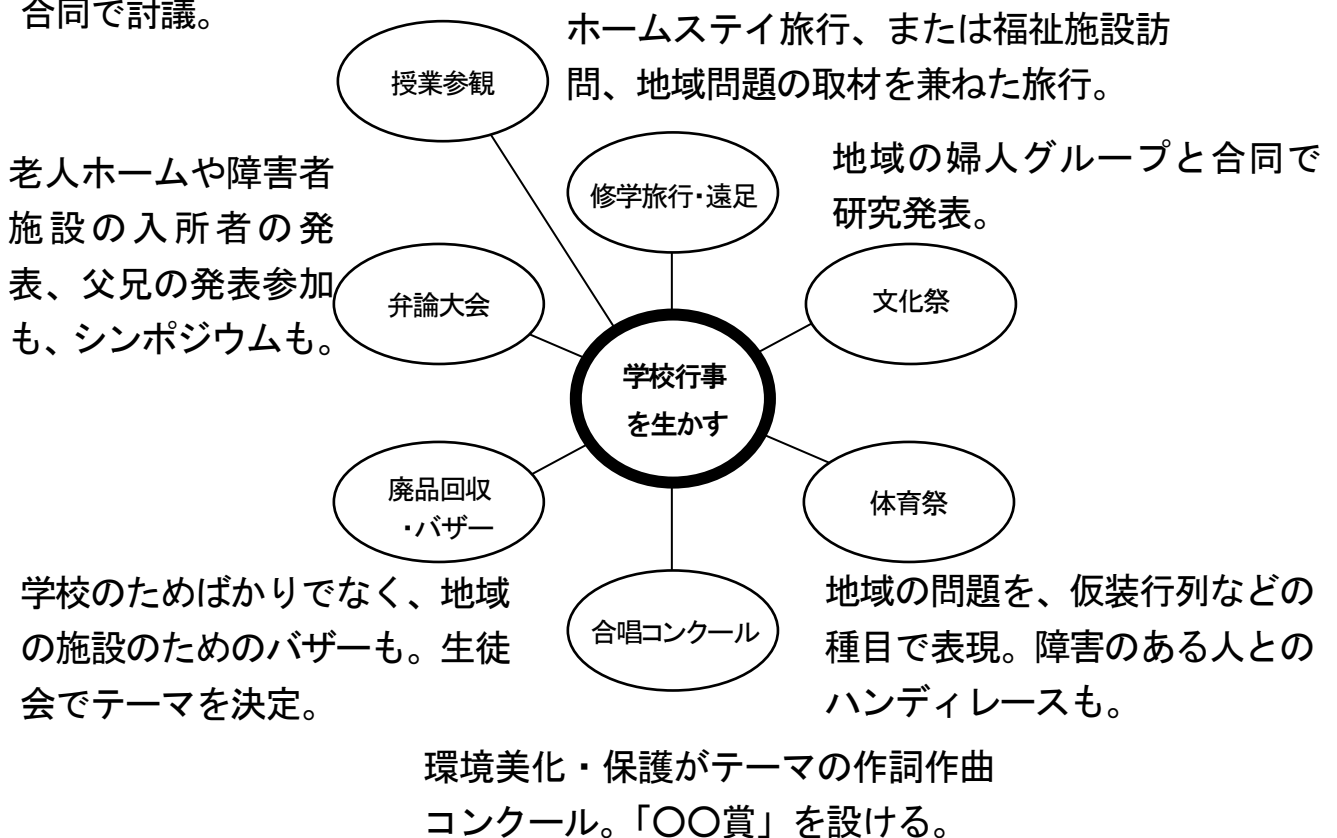
校内や地域問題取材し、特集企  
画を放送。有線放送とも提携。

地域の環境汚染・緑の保護活動に  
活動を拡大。運動場を子ども・お  
年寄りにも開放。

### ③学校行事を生かして

1年の間に学校でもいろいろな行事があります。その行事を生かせば、様々な活動ができます。校内行事とは別枠で社会活動をするのではなく、校内に限定した行事の中で、あえて社会活動の機会をつくるのが大切です。

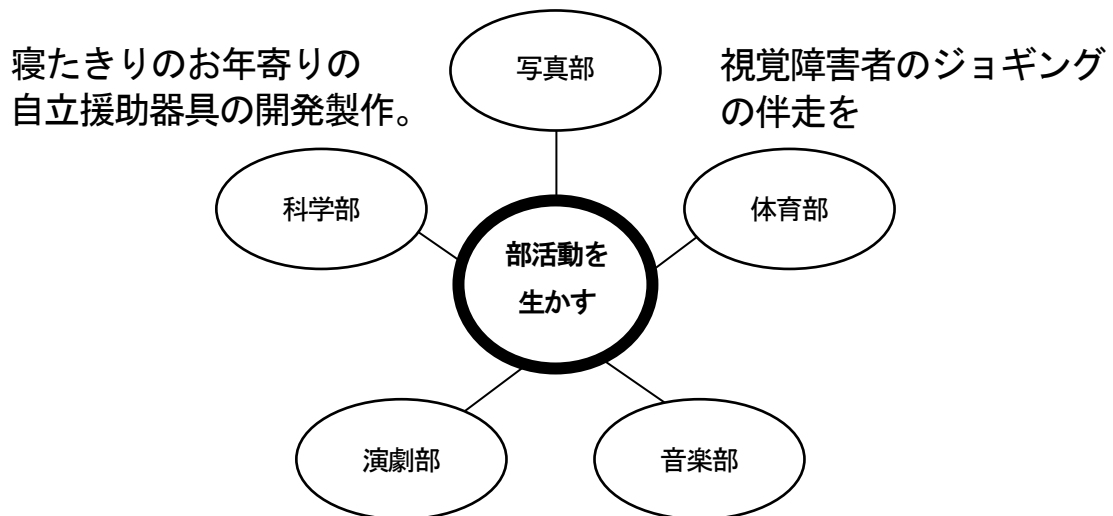
家庭や地域のホットな問題をテーマに生徒が班ごとに問題提起し、父兄と合同で討議。



#### ④部活動を生かして

部活動で発揮している腕は、生かし方によっては素晴らしい能力です。バレーボール部が視覚障害者と一緒にフロアバレーボールを楽しむとか、陸上部が視覚障害者のマラソンの伴走をするというように、その部でしかできないことがあるのです。「モチはモチ屋」という、そのモチ屋の腕をできるだけ発揮しましょう。

地域の問題取材し出展。  
または独自に写真集を出版。



福祉施設取材し、オリジナルの脚本を作って一般公演。

コンサートに参加する障害のある人へ作詞・作曲を指導する。

## 2.子どもにやさしいまちづくりの留意点

このように子供のことを集中的に考えてみると、「子どもにやさしいまちづくり」といった視点が今の社会では置き去りにされているように感じられます。最近になって、社会では児童虐待が、学校ではいじめが話題になり、また格差による貧困のしわ寄せが子どもに来ていると指摘されたりする中で、ようやく「子供にやさしいとは、どういうことなのか」を考えるようになってきました。

さて、その「子どもにやさしい」とはどういうことか、私なりに考えてきたことを述べてみましょう。

### (1)高齢者にばかり関心が集中。子どもは置き去り

現代社会において「子どもにやさしい」とはどうすることなのか。福祉は高齢者対象に偏向していて、子どもの福祉は置き去りにされています。高齢化した地域になるほど、子どもの福祉がおろそかにされているのです。一方の健全育成関係者は「遊び」が主体になっていて、福祉には関心が向きにくい。その間で、「子ども福祉」はどうあるべきなのかがわからなくなっているのです。

### (2)まずは子どもを集めて支え合いマップづくりを

支え合いマップ作りは、一回が一時間半程度なので、どうしても高齢者問題に絞られてしまいます。「再度マップ作りをしましょう、今度は子どもを集めて」と言うのですが、それが実行されない。しかし、実際に子どもを集めてマップ作りをしてみると、そこから面白い事実が浮かび上がってきます。子ども福祉への関心がそこでようやく芽生えるのです。

### (3)子どもの問題は子どもが考え、子どもが解決する

子どもはまだ「保護」の対象だと考えられています。そのために常に「大人目線」で子どもを見てしまいます。子どものためだから、と。しかし子どもにやさしいということは、まず子どもの意見、考えをきちんと聞くということから始める必要があります。子どもの問題は子どもが考え、子どもの手で解決努力をしていく、それを応援するのが子ども福祉の出発点ではないのか。そこから「子どもも大人並みの扱いをする」という発想も出てくるのです。

## (4)責任ある行動ができるように自立訓練を

子どもにも大人並みの扱いをするためには、彼らに自立訓練を施す必要があります。文部科学省の施策を見ていると、保護状態を続けたいのか、自立させたいのかがよく見えません。その間で揺れているのです。文明社会は否応なく子どもも大人の社会に引き入れています。スマートフォンの所有調査をすると、多くの小学生がすでに持っていることが分かります。となると、早め早めに自立訓練をしておかねばなりません。アメリカ社会は多様な自立訓練のメニューを持っていますが、日本ではほとんどなされていないのです。

## (5)子どもを大人の地域活動に参加させよ

地域福祉でも、子どもは「福祉の対象」と見ていますが、しかし別の面では立派な福祉資源であることを忘れてはなりません。町内会活動や防災、防犯活動などに子どもはどのように参加できるか、考える必要があります。趣味活動やふれあい活動にも子どもが参加している。こういうことが自立訓練になる、とともに子どもも立派な福祉資源であることが立証されるはずです。

一人暮らし高齢者宅の雪かきに中高校生を動員する所もありますが、子どもも地域活動に参加させるための具対策を考えるべき時期に来ています。

## (6)子どもの目線でまちをつくり直す

先ほど述べましたが、今のまちは子どものことを考えずにつくられていると言ってもいいでしょう。高齢者対策に偏しすぎた私たちの福祉に対する姿勢を改めるためにも、まちのあり方を今一度、子どもの目線から見直して、「子どもという住民」も考慮に入れたまちを構想し直していく必要があるのです。

## (7)受験対策、就職対策の前に1人1人の能力開発を

今は受験対策と就職対策に子どもたちが振り回されています。小さい頃は受験対策として塾通い、偏差値による評価。大学になると今度は就活で、勉強どころではなくなる。その間に疎かにされているのが、子どもがそれぞれ持っているはずの能力を掘り起こし、それを伸ばすという大事な営みです。

小さい頃から、一人ひとりが持っているはずの才能を掘り起こし、時間をかけて磨いていけば、卒業前に一斉に就活をして疲弊する必要もなくなるはずです。

### 3. 「子どもが主役」をどう実現する？

子どもを、いつまでも大人の庇護の下に置いておくのではなく、一人の人間として扱うこと、特に子どもの問題は子どもが考え、問題を発見し、自らそれに対処する。社会の問題に対しても、子どもの立場から考え、意思表示ができるように遇する。こういうことができるように側面支援するのが本当の子ども福祉になるのです。これを「子ども発」と言ったらどうか。

#### (1)「子ども発」を支援するとは？

子どもが主役としての自覚を持って行動できるようにするには、どんな支援が必要なのか。

|   | 子ども発の支援       | 事例   |
|---|---------------|--|
| ① | 子どものか細い声を聞く   | 子どもの悩み電話相談   |
| ② | 子どもに発言させてみる   | 子ども議会で意見表明。町内会で子どもにも発言させる  |
| ③ | 自分で判断させ選択させる  | 生徒が先生の授業評価。生徒が通信簿で自己申告書。<br>「学校へ行かない」という選択も。子どもにもガン告知。<br>終末医療—子ども本人の意思を尊重 |
| ④ | 子どもの選択の受け皿を用意 | ホームスクール。ホームスクールを支援する学校や教材。フリースクール。子ども向けホスピス                                |
| ⑤ | 子どもにやらせてみる    | 町内会便りや回覧板づくりを子どもが。生徒がカウンセラー役。生徒が生徒のいじめ相談。<br>危険箇所点検は子どもの手で。子どもに護身教育        |
| ⑥ | 子どもを主催者に      | 子ども会活動は子どもの手で（上級生が）。おさらい教室を上級生が主導。子どもの自助グループづくり                            |
| ⑦ | 子どもに責任を取らせる   | 交通安全子どもの会づくり。町内美化に子どもも参加。校則は子どもが作る。いじめの問題解決は生徒の手で。                         |
| ⑧ | 子どももサービスの対象   | 子ども喫茶店。子ども向けクラシックコンサート。  |

## (2)いじめ問題は子ども自身の手で対処

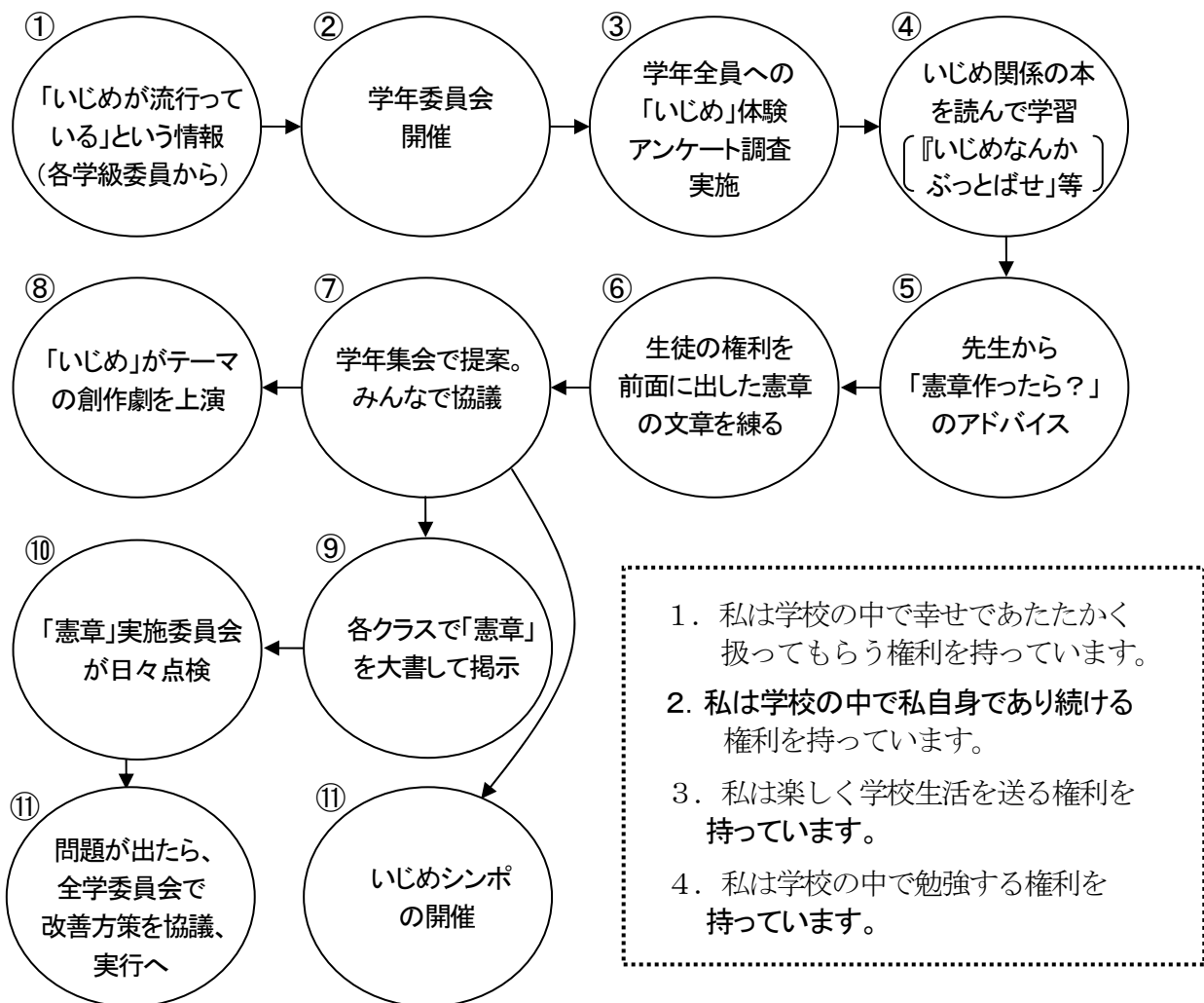
いじめが社会問題になっていますが、その対策の中に「子どもの手で」というのが見当たらない。

いじめの本人も生徒だし、それを傍観しているのも生徒です。彼らが「お客様」の位置に置かれていて、本当にいじめがなくなるのか。

ここに示したのは、ある学校で取り組まれたことを図にしたものです。

①いじめが流行っているという情報が各学級委員から上がってきた。②そこで学年委員会を開催。③まず学年全員へいじめに関するアンケート調査を実施。④いじめ関連の本を皆で読む。⑤「いじめ憲章をつくろう」。⑥これを学年集会で提案し、協議。⑦いじめテーマの創作劇を上演。⑧いじめシンポジウムを開催。⑨「憲章」実施委員会が日々点検。⑩問題が出たら全学委員会で改善方を協議。

### ●ある学校の生徒会の手による「学年憲章」づくり





# 4.子どもの問題は子どもの手で —「子ども発」をどう支援する？

## (1)子どものことは子どもが考えるもの。「子ども発」の発想

子どものこと（問題）は子どもから発する—「子ども発」と名付けてみました。ここでは、「子どもの側から発する言葉」として考えてみましょう。

5つの項目と、その具体例を並べてあります。一人の人間として扱うなら、「町内会だより」や市町村の広報誌に子どものページがあっている。喫茶店だって、子ども向けのものがある。実際、都内にはそのような店ができています。

子どもが一人ひとり違うということを認めなければなりません。服装だって、各自に合ったものを着る権利があります。本来、学校に行くのかどうかだって、各自で決めることができなければならないのです。アメリカなどではホームスクールという選択肢も一般的で、ホームスクールによる学習を支援する学校や教材もあります。

子どもの問題を勝手に大人だけで議論し、解決してしまうのではなく、子どもに考えさせ、解決させるべきです。「いじめ」の問題ばかり、「校則」の問題ばかり。ある高校で、社会科の教科書がわかりにくいと、生徒たちで独自に教科書を作ってしまったという事例もあります。

### ①一人の人間として扱って

- ・町内会だよりに子ども向けも
- ・子どもの権利宣言をわかりやすく
- ・子ども向け喫茶店を！

### ②人としての責任も果たしたい

- ・ゴミの減量化に協力
- ・まちの美化活動に参加したい
- ・子どもの交通事故防止事業に参加したい

### ③私の個性も尊重してほしい

- ・私に合った服装をしたい
- ・自分の進路は自分で決めたい

- ・私は学校に行かない

#### ④私(たち)の問題は私たちで

- ・いじめの問題は自分たちで取り組みたい
- ・生徒の悩みは私たちで受け止めたい
- ・先生の暴力にも私たちで対処したい
- ・校則の問題は生徒が考えたい
- ・教科書は自分たちで作りたい
- ・授業のあり方は私たちで考えたい

#### ⑤私に関わることは私も考える

- ・DVの問題を私たちも考える
- ・親による児童虐待問題も
- ・単身赴任、過労死、リストラの問題にも関わりたい

## (2)子どもたちで自助グループづくりを

同じ問題・悩みを抱えた者同士で自助グループを作ることも、もっと子どもたちで考えていい。

子どもも自身の問題解決の主体は自身でなければならないのです。といっても自分1人ではとても解決できません。そこで自助グループづくりが必要になるのです。

### ①例えばこんな自助グループは？

すでにできているグループもあります。

|   |                             |
|---|-----------------------------|
| 1 | 家に要介護の祖父母がいる子どもが作るグループ      |
| 2 | 不登校の子とその親が作るグループ            |
| 3 | 心身に障害のある兄弟を持つ子どもが作るグループ     |
| 4 | 親が離婚した子どもが作るグループ            |
| 5 | 親がアルコール依存症の子どもが作るグループ       |
| 6 | 親族に犯罪被害者または加害者がいる子どもが作るグループ |
| 7 | 病気や長期欠席の子どもが作るグループ          |
| 8 | いじめを受けている子どもが作るグループ         |
| 9 | 帰国子女で作るグループ                 |

|    |                       |
|----|-----------------------|
| 10 | 虐待を経験した子どもが作るグループ     |
| 11 | 養護施設出身の子どもが作るグループ     |
| 12 | 親が共働きで留守が多い子どもが作るグループ |
| 13 | 外国人の親を持つ子どもが作るグループ    |

## ② 子どもの自助グループのサポート体制づくり

子どもだけではグループづくりもその運営も難しい。どうしても大人が応援しなければなりません。同じ子どもでもOBや生徒会などの組織が応援することもあります。

|   |  |   |
|---|--|---|
| 1 | 大人の自助グループが支援                             | 合同で活動しながら、徐々に自立させる                        |
| 2 | セルフヘルプ支援センターが支援                          |   |
| 3 | OBがグループを作って支援                            | 自分は卒業したが、その体験を生かして後輩を指導                   |
| 4 | 学校やPTAが支援                                | 生徒指導の一環として                                |
| 5 | 生徒会が支援                                   | 生徒会活動の豊富な柱の1つにしている                        |
| 6 | 福祉機関が支援                                  | 地域包括支援センターはこういう子と接触する機会が多い                |
| 7 | 関係機関がそれぞれ支援                              | 犯罪に関連する場合は警察、依存症に関連する場合は依存症のサポート団体というように。 |
| 8 | 町内会が支援、または町内福祉委員会が、町内圏域の子どものグループを作らせてもいい |   |

### ③「交通安全子どもの会」をつくったら？

子どもの交通安全にまず関わるべきは子ども自身です。この活動を子どもが主体となって行うとしたらどうなるか。

|   |   |
|---|---|
| 1 | 支え合いマップで危険個所の点検<br>その上で、実際にまちを歩いて、子どもの目から見て危ない場所を特定する |
| 2 | 危険個所の改善を当局や警察署に伝達<br>子どもの声を集約して大人に提示                  |
| 3 | 上級生が交通安全のパトロール<br>下級生の登下校の見守りを。これを高齢者と一緒に             |
| 4 | 子どもの交通事故の原因を調べる<br>子どもと大人のそれぞれの課題を抽出する                |
| 5 | 子どもを対象に、子どもが交通安全教室を開催<br>警察と連携。子ども自身が教材づくり            |
| 6 | 子どもの安全を守るよう訴える運動<br>子どもから大人に訴えたいことをまとめる               |
| 7 | 自転車のマナー教室を子ども主体で開催<br>警察の協力を得て、事前学習（どういうことに注意すべきか）    |

### (3)子どもの手で「自分たちの問題さがし」

高校生の「福祉活動」といえば、思い浮かぶのは老人ホーム訪問や障害者とのふれあいでしょう。「福祉」とは、(自分でない)他者のための「やさしさ」行動だという思い込みがあるのです。しかし「福祉」は、まず自分を大事にできることから始まり、そこから他者へと広がっていくのです。

#### ①高校生たちが「自分たちが抱えている問題」を集約

そこで、高校生を対象にした集会で、今日は自分自身や仲間、家族など、足元の「問題」を考えてみたらどうかと呼びかけました。初めはなかなか頭の切り替えができていくようだったが、グループ内で話し合っているうちに、だんだんと焦点が合ってきました。各グループから出された「問題」を整理したのが次頁の図です。

## ②高校生が「食生活の貧しさ」に絞って活動展開

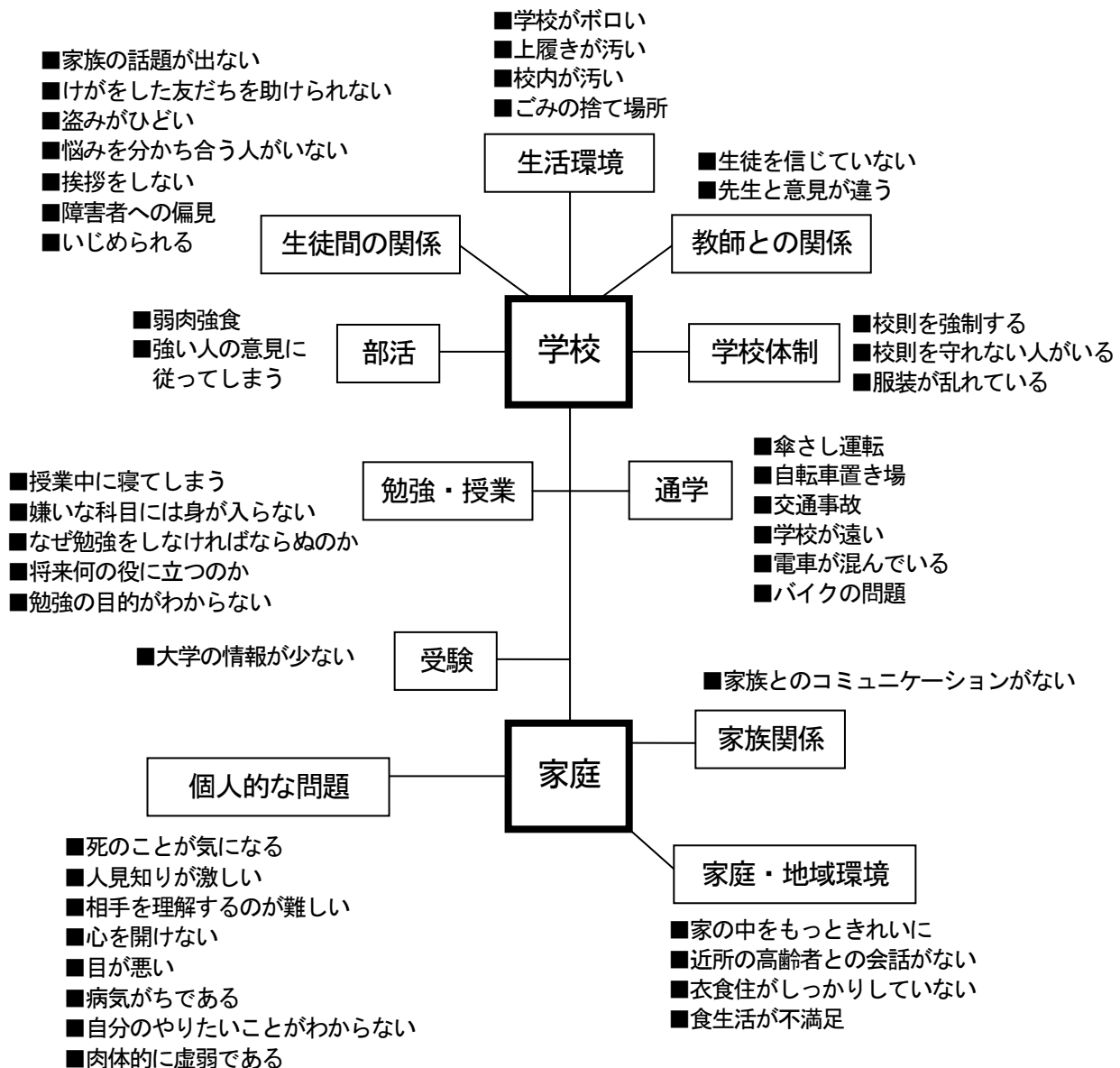
ある高校の家庭クラブが活動テーマに選んだのが、「高校生の食生活の貧しさ」でした。アンケートを実施したら、その問題が浮き彫りになったのです。

そこで以下のような活動が始まりました。

- ①「家庭クラブ報」で食生活の大切さを訴える。
- ②男子生徒を対象にした調理実習。弁当を実際に作ってみる。
- ③講演会の開催（食の大切さ）。
- ④保育所で実習（園児に正しい食生活を指導）。
- ⑤PTA総会で発表。
- ⑥町の福祉祭りでも。
- ⑦その結果、男子生徒は休日の昼食を自分で作るようになったという。女子生徒は親と一緒に食事を作るようになった。

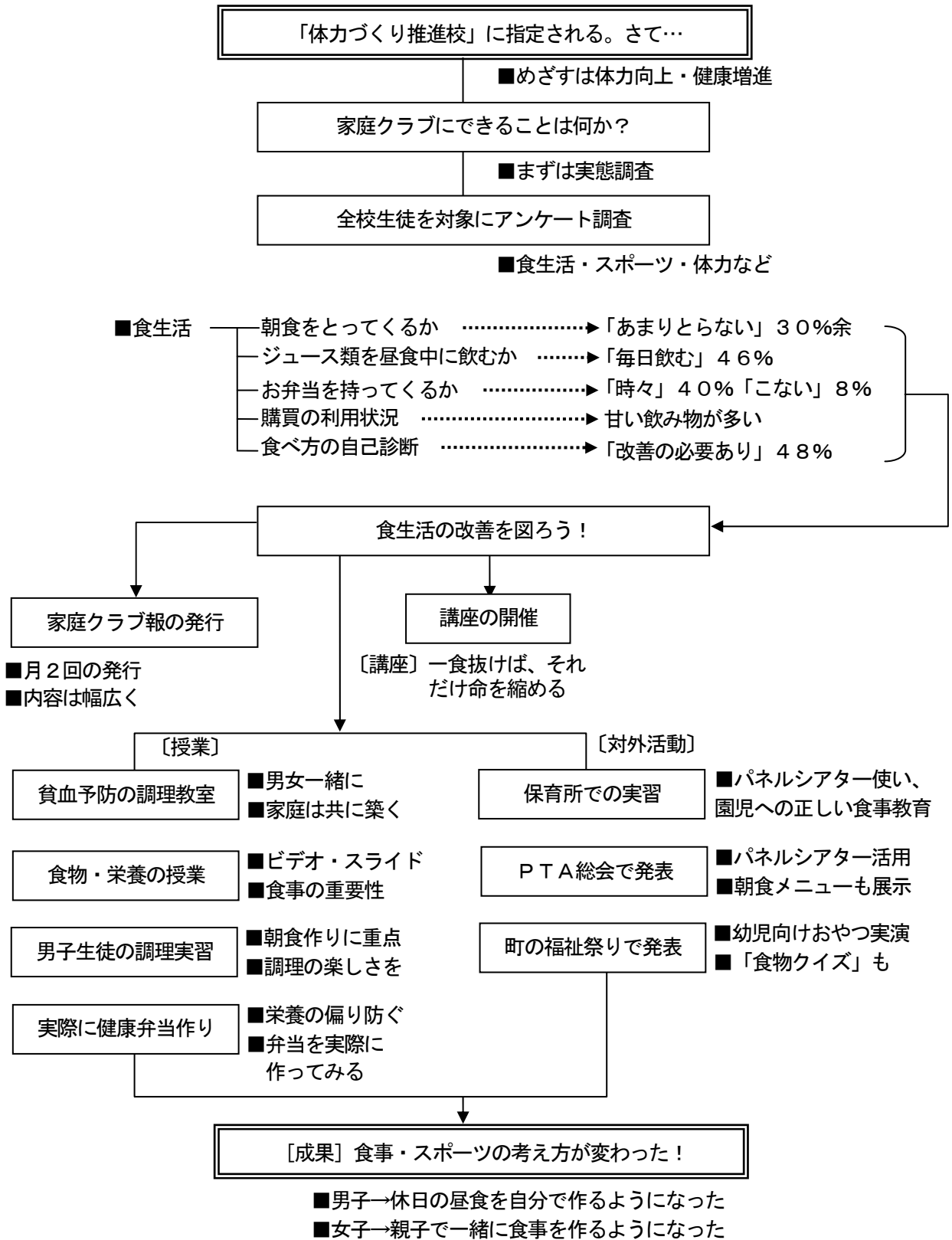
## 高校生自身が抱えている「問題」マップ

<栃木市内の高校生有志がグループ討議の中で出し合ったもの>



# 自分たちの食生活の問題に取り組んだ高校生

＜栃木県栗野高校・家庭クラブの取り組み＞



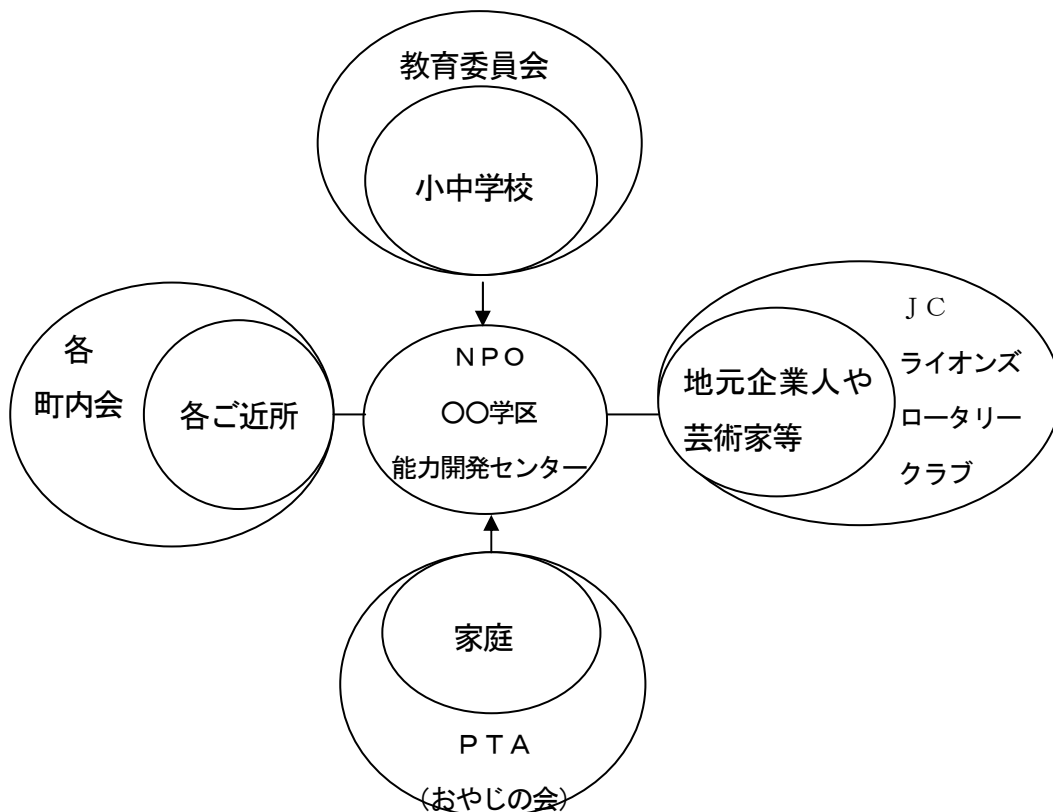
# 5.子どもの可能性を伸ばすには？

今の子どもは、受験対策、就職対策のために一夜漬けの教育を受けています。教育の本来の目的の1つである能力開発に目が向けられていません。これにどう取り組んだらいいか。

## (1)子どもの能力開発センターを作ったら？

今、福祉に求められているのは、生活困難者への救済措置もさることながら、一人ひとりの潜在能力を発掘し、それが開花することで救済の対象から脱することができるようにすることです。

小学校から大学まで、一律の「普通教育」を受けた後、社会に出る段階になって、一人ひとりが持っている潜在能力を開発しようとしても遅い。一斉に「就活」をして大変な思いをするよりも、小学校の頃から地域社会が一丸となって一人ひとりの能力を開発していく方がいいはずで。障害のある子どもはもちろん、子ども全員について本格的な能力開発を進めていく必要があります。そのためには学校と家族、地域の企業等が協力して進める必要があるし、地元の関係機関も協力し合わなければなりません。



## ①学区ごとのNPOがセンター設立

能力開発には、柔軟な発想と行動力が求められるので、NPOがセンターを設立するのが妥当です。そこで関係者が連携すればいい。中学校区ごとに設立しましょう。

## ②小中学校に「能力開発」推進室

本来、能力開発センターは学校内に設けられるべきものですが、実際には通常の教育活動に忙殺されているので、有志教員によって「能力開発推進室」を設置する程度でも仕方ありません。教育委員会もこれに全面的に関与すべきです。

各科目の教員が、授業の中で発掘した生徒の能力に関わる情報を持ち寄り、それをさらに伸ばすために他の教員と連携していく。必要によってNPOのセンターへ持ち込んで、地域でその能力を本格的に伸ばせる場を見つける。場合によっては、学校での授業は免除して、受け皿の企業や協力者に預けるといった方法もとるのであります。

## ③PTA（特におやじの会）が全面的に協力

今はPTAの役割はあまりはっきりしないが、子どもの能力開発に本格的に参画したらどうか。最近、PTAに「おやじの会」が生まれて、校内イベントのバックアップなどを行っています。その際、彼等の能力が発揮されているのは、彼等のそれぞれの本業の腕を通してです。その「本業の腕」を、子どもの能力開発に生かせないものか。自分の子どもの能力について披露し合い、どういいう職場研修をしたらいいかを協議する中で、「では、うちの店で働いてみるか？」といった話に発展することもあり得ます。

それぞれの人を持っている仕事を全て登録し、これを何らかの点で生かせるなら、地域の子どもの能力開発にとって大変な援軍になります。

## ④地元企業や芸術家も協力。JCやライオンでも

JCやライオンズクラブもこの面で協力できないか。学区内のNPO能力開発センターのメンバーになってもいい。

中学生の職場体験を恒常化している地域もあります。そのように恒常的に子どもの能力開発の受け皿として機能してくれればいい。

## ⑤ご近所や町内会も

ご近所や町内会も「ご近所授産」（ご近所で仕事を発掘・提案）や「町内授産」の受け皿になったり、子どもの日常的な観察情報をNPOに伝えるなどで大きな役割を果たすことができます。

## ⑥センターが子どもの能力開発で情報統一を

子どもの持っているはずの能力を発掘し活用する必要があります。家庭や学



校（各教科）、地域（子ども会や塾、部活など）などが個別に所持している情報をセンターで統合しないといけません。

### ⑦ プライバシーの壁を乗り越える

これを進めるには、家庭や学校が子ども関連の情報を公開しなければならないでしょう。能力開発に関して、各家庭がオープンにならないとこの事業は前へは進みません。難しいとなると、とりあえずオープンになることを了承した家庭から始めるより仕方ありません。

### ⑧ 能力開発は大学まで続ける

この作業は子どもの頃から青年期、大学卒業までずっと継続していかなければなりません。どの段階で思わぬ能力が見つかるか知れないからです。究極的には、人間は一生、能力開発を続けなければならないのです。よく「自分発見」という言い方をしますが、これも「能力発見」の一環なのです。

## (2)個人別能力開発カード

|                |                      |  |
|----------------|----------------------|--|
| 氏名             | 生年月日                 |  |
| 住所             |                      |  |
| 親の職業           |                      |  |
| 本人の得意なこと、好きなこと |                      |  |
| 将来の夢           |                      |  |
| 部活             |                      |  |
| おけいこ事          |                      |  |
| 潜在能力           | 学校側の観察<br>(各教科担当の評価) |  |
|                | 家庭の観察                |  |
|                | 地域（子ども会）の観察          |  |
| 能力開発           | 家庭で                  |  |
|                | 学校で                  |  |
|                | 地域で（企業など）            |  |
|                | その他                  |  |

## 6.子どもを地域活動に参加させるには？

子どもは子どもという小さなコミュニティの中に押し込められています。身近な大人は親か先生だけといった非常に限られた人間関係の中にいることが、いじめなどの問題をだれにも相談できずに思い詰める原因にもなっています。もっと広く、大人の地域活動にも参加できるようにして、いろいろな人や物事に触れる機会をつくるべきではないか。

### (1)大人のグループ活動に子どもも参加を

地域活動は、なぜ大人だけでやらねばならないのか。子どもだって果たせる役割はあるのです。ある食事サービスグループは、小学生を仲間に入れて、弁当2食と一緒に彼らを高齢者宅に「配達」する。食べ終わった後、子どもと弁当の器を「回収」する。小学生は「食欲増進ボランティア」なのです。

#### ①自分の地域ではどのグループが子どもを受け入れやすいか

それぞれのグループが、子どもをメンバーとして受け入れた場合のことを考えてみましょう。

|   | 大人のグループ  | 役割                   |
|---|----------|----------------------|
| 1 | 食事サービス   | 子どもも配食に参加。下ごしらえを手伝う。 |
| 2 | 生協、JA    | 共同購入活動に参加            |
| 3 | 友愛訪問グループ | 親と一緒に訪問。学校帰りに訪問。     |
| 4 | 家事援助グループ | 子どもができることで参加。        |

#### ②大人の活動グループに子どもも参加—のメリット

今は子どもはただの保護の対象でしかないが、子どもも大人のグループに参加するようになると、様々な利点が生まれるのです。

|   | 子ども参加のメリット          | 解説                 |
|---|---------------------|--------------------|
| 1 | 「子ども」も大事な資源だと分かってくる | 子どもに対する社会の見方も変わる   |
| 2 | メンバーの持ち味を生かすようになる   | 大人一人ひとりの持ち味も生かそうと… |
| 3 | 「子ども」の役立つ分野が広がっていく  | 「他にも生かせるのではないかと…」  |
| 4 | 子どもも一人前の人間という自覚が育つ  | ただの「保護される対象」ではないと  |
| 5 | 一人前の人間としての責任感も育つ    | その分、責任ある行動をとらねばと   |
| 6 | 活動の可能性の幅が広がる        | 子どもを生かせば新しい活動もできる  |

## (2)大人の活動の子どもバージョンを

地域活動は大人だけがやるものとは限りません。子どももこれに参加していいはずです。その場合、実際には以下のように大人とは別個に子ども組織を設けるケースが多いようです。

### ①子どもバージョンのいろいろ

|   | 子どもバージョン  |
|---|-----------|
| 1 | 子ども民生委員   |
| 2 | ジュニア福祉委員  |
| 3 | 子どもヘルパー   |
| 4 | 子ども町内会    |
| 5 | 交通安全子どもの会 |

### ②「子ども町内会」の活動メニュー

|   | 活動テーマ  |
|---|--|
| 1 | 子どもにとっての町内の生活環境を調査<br>課題を抽出すると共にその課題解決に取り組む（遊び場、交通、不審者、通学など）                         |
| 2 | 外国人の子や障害児、病弱児等の置かれた状況を個別に調査<br>対策をまとめ、取り組む。（普通校へ通学できているか、子ども会に加入できているか、健全児と交流できているか） |
| 3 | 生活困難家庭の子や虐待を受けている子などを掘り起こし、対策を考える<br>子どもの情報ネットで拾い出す。関係機関へ訴えも                         |
| 4 | 少子化が進行している町内では、これに子どもとしてできることを考え、行動に移す<br>まず子ども福祉を改善していくことなどを提案                      |
| 5 | 高齢化の進んだ町内では、高齢者福祉に子どもとしてできることを調べて行動を起こす<br>子どものできる高齢者向けボランティアを整理してみる                 |
| 6 | 学校生活での（生徒にとっての）問題点を探し、生徒としてできることを実行する<br>いじめの問題はないか、教師による暴力はないか、など                   |
| 7 | 行き過ぎた学業偏重で、地域での子ども同士の交流が損なわれていないか調べる<br>町内での子どもの交流のあり方を考え、行動に移す                      |
| 8 | 小さい子どものために、どんな役割が果たせるか考える<br>子ども会の運営を「子ども町内会」で担うのもいい                                 |

|    |   |
|----|---|
| 9  | 大人の町内会の会合に参加し、子ども町内会としてどんな役割を果たせるか協議<br>両者が連携してできることはないのか、子どもの問題を提起するとか |
| 10 | 子ども町内会でネットワークし、市域で共同歩調をとるテーマを見つける<br>市の福祉機関へ子どもの立場から問題提起してもいい           |

### (3)子ども向け活動を子どもの手で

子どもの福祉や健全育成は大人がするものだと思われていますが、上級生が下級生の面倒を見るといったことも可能です。子ども同士で解決するというあり方を広げていけば、子どもの意識も変わってくるはずです。

#### ■中高生が子ども会を運営する方式

子ども会といえば、親たちが活動を仕切っている姿をイメージします。小学生たちで主体的に活動すればいいではないか、とはさすがに言いにくいとしても、せめて中高生が主導してすすめるぐらいはできないものか。しかし、そういう事例になかなかお目にかかれません。

岩手県の久慈市では、小学生のグループの他にも、中学生と高校生の会が独自に生まれています。指導者の高谷淳子さん（社会福祉協議会職員）に聞くと、まず小学生中心の「みどりの子供会」が昭和56年に誕生。中学生の「ドリームズブロッコリー」が平成7年に、高校生中心の「グリーンピース」が平成5年に生まれた。

平成12年には「リトルバード」という社会人のグループも生んでいる。平成20年の時点で、「みどり」が43名、「ドリームズブロッコリー」が25名、「グリーンピース」が51名、「リトルバード」が11名。高校生グループが中学生グループより先に出来ているところに意味があるのです。

#### ■高校生が小学生の活動企画を担当

この高校生グループが、小学生グループ活動の企画運営を担っているようです。久慈市全域から集まった51名のメンバーが月1回集まってイベントの企画を立てる。やがて小学生が中学生になっていく。その中学生も組織しようとなり、中学生グループもでき、高校生の企画イベントを中学生が補佐し、役割を分担するようになったということです。

しかし、よく中学生や高校生が集まったものだと思うでしょう。高谷さんによれば、「穴場」があるのだといいます。中学生も3年になると部活から解放され、時間ができるのだと。しかも小学生で子ども会活動に参加していると、その延長で中学生になっても入りたがる。その中学生が高校生になっても活動を続けたいから、

高校生になっても入ってくる。こうして世代ごとに「子ども会」の延長でグループができていくことに、意外なメリットがあったのです。

### ■東京や仙台の先輩が面倒を

高校を卒業して大学に入ったり就職したりすると、その行き先に「子ども会の先輩」がいて、仕事や学業の悩みの相談に応じてくれるし、自宅に泊めてもくれるといます。そうしたネットワークが盛岡（支部）では県立大学にできているし、仙台や東京にもできています。彼らが大人になって久慈市に戻ってきて、後輩たちの相談係を受け持っているのだと（それが「リトルバード」）。

この子ども会活動には親はなるべく参加させないということです。参加できる親とできない親がいるというのでは、子どもの心に悪い影響を与えかねないという配慮からで、たとえ参加しても親たちだけで別メニューで活動してもらいます。中心は高校生で、9月の寺合宿（高谷さんが住職をしている寺での合宿）は中学生が担当します。中学生と高校生は子ども会の指導に関わりながら、それぞれ独自の活動もしています。高校生なら保育園での交流イベントや国道での植樹など。

子どもたちは故郷の久慈市に戻ると高谷さんを訪ねます。正月も高谷家への訪問を欠かさないようです。彼女が彼らの事実上の「故郷」となっていたのです。

### 子ども会活動の活動メニュー

|  | 活動メニュー |
|--|--------|
|  |        |
|  |        |
|  |        |
|  |        |
|  |        |
|  |        |
|  |        |

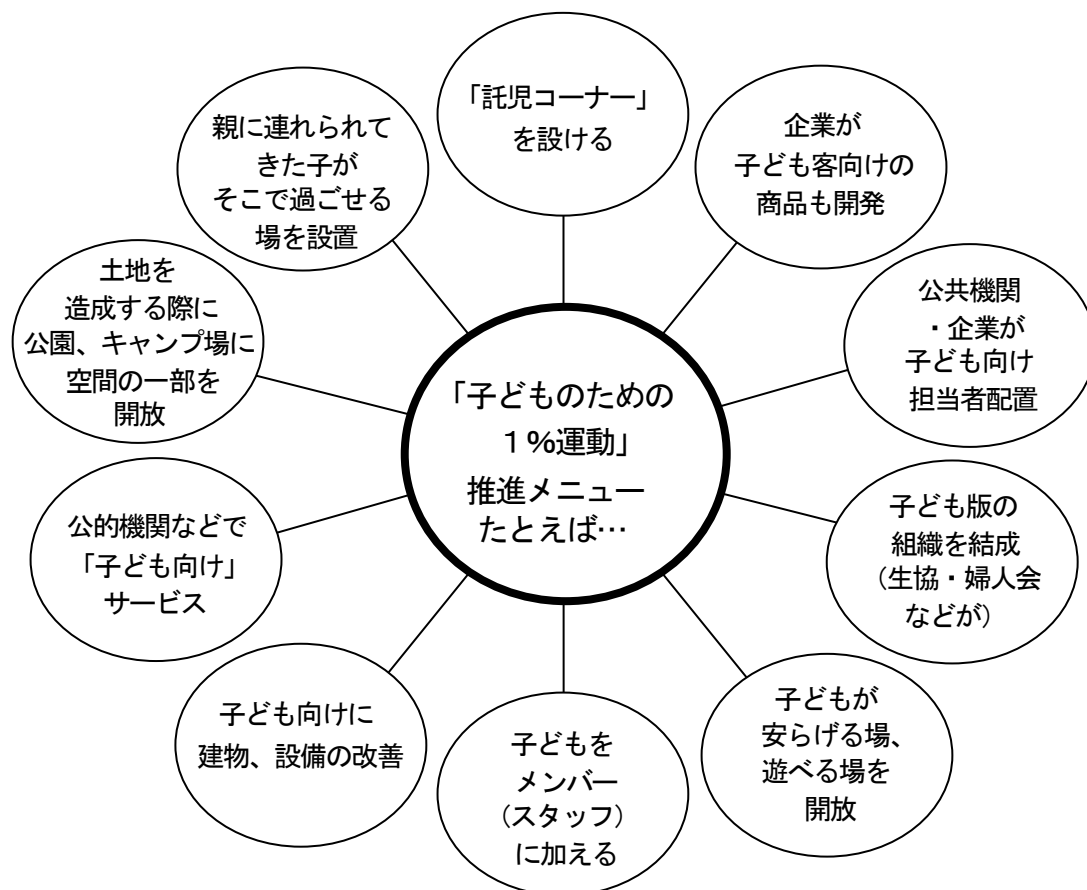
# 7.「子どもにやさしいまち」はどう作る？

今のまちは、大人を対象につくられてあります。子どもから見たら、不便なものも少なくありません。子どもにやさしいまちはどう作ったらいいのか。

## (1)子どものための1%運動—せめて1%子どものことを考えよう

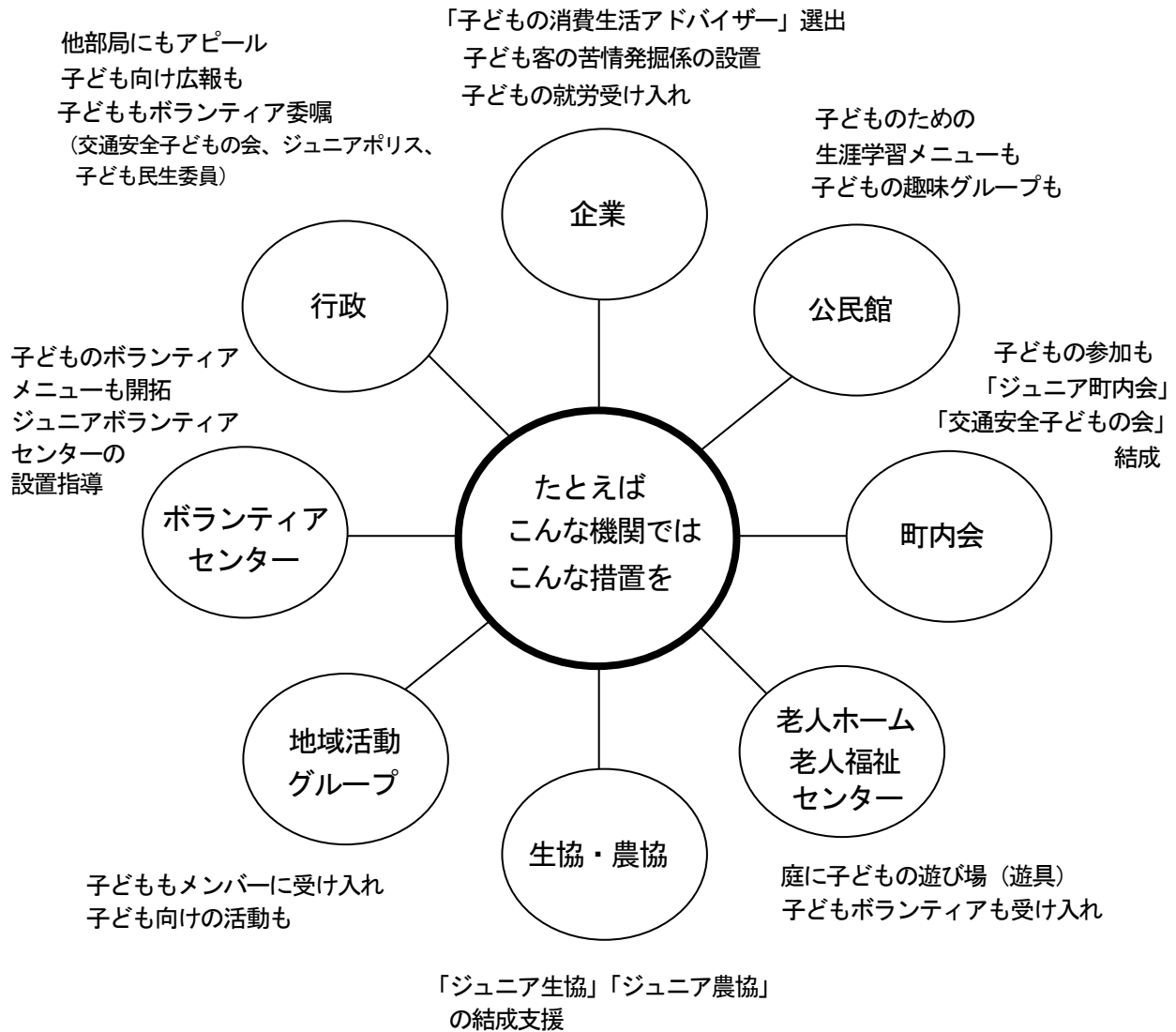
「バリアフリー」は高齢者や障害者だけに適用されるものではありません。子どもだってまちをバリアフリーにしてもらいたい権利があるのです。そこで地域の公共機関や企業などに、せめて1%でも、子どもに配慮した建物やサービスをとという運動はどうか。この視点でまちの点検をし、その改善点を当該企業なり機関・団体に提示していくのです。

### ①たとえば—



## ②子どもにやさしいまちづくりー活動別の課題

具体的にそれぞれの機関・団体に求められるバリアフリーの課題を考えてみます。公民館が子どもの生涯学習の便宜をどの程度図ろうとしているか、子ども向けの趣味教室がどれだけ用意してあるか、各種の趣味グループが子どもをメンバーに受け入れる気はあるか。ボランティアセンターが子どもをボランティアに登録させているか。



## (2)子どもが選ぶ「子ども110番の家」

全国どこでも「子ども110番の家」がありますが、それが活用されているか疑問です。自分の家(店)が「110番の家」だと意識していない例も少なくないのです。そこで子どもに選ばせてみたらどうか。

### ①駆け込む理由の種類

子どもが実際に「駆け込む」理由は、多種多様です。

|    | 駆け込む理由と場所  |
|----|--|
| 1  | トイレにかけこむ家・店<br>学校帰りに、我慢できなくて駆け込む家がある                       |
| 2  | 水を飲ませてもらう家や店<br>これも学校帰りに、多くの小学生が利用する家がある                   |
| 3  | 「ヘンなおじさん」が出た時逃げ込む家や店<br>子どもとマップづくりをすれば「おじさん」の出没場所は全部わかる    |
| 4  | おやつをご馳走してくれる家や店<br>「おやつ作り児童館」と銘打って、意図的にやっている家も             |
| 5  | 悩みごとの相談にのってくれる家や店<br>高齢の女性がこの役を担っている                       |
| 6  | ただボケーっと1人で過ごさせてくれる家や店<br>「子ども喫茶店」を作ったら、この種の子が来たという         |
| 7  | 家出してみたいとき受け入れてくれる家や店<br>「一日ぐらい親から離れていたい」という時に、親公認の家がある     |
| 8  | 親の暴力から逃げたいとき駆け込める家や店<br>子どもの顔や行動から問題を推測できる資質が必要            |
| 9  | 友だちからいじめられた時逃げ込み、相談にのってくれる家や店<br>これも同じ。ちょっとした表情や言葉から推測できる人 |
| 10 | 宿題をできる家や店(手伝ってくれる)<br>元教師がこの役を担っている                        |

### ②子どもと一緒に支え合いマップづくりで「家」探し

子どもを集めて支え合いマップをつくり、前掲の家や店を探してもらう。子どもの行動半径を調べ、その区域ごとに実施。小学生と中学生では中身が違うので注意する。



|   | 聴取項目                             |
|---|----------------------------------|
| 1 | 該当する家や店はどこか？                     |
| 2 | 前掲の中のどれに該当するか？                   |
| 3 | 当主はどういう人か？                       |
| 4 | 具体的にどんなことをしてくれているか？（大抵は複数しているはず） |
| 5 | 何か問題はあるか？                        |
| 6 | どんな支援をしたらいいか？（そのヒントを聞き出す）        |

### ③「子ども110番」への支援

主任児童委員がそういう多様な「110番の家」を掘り起こし、それぞれを訪問し応援していました。

|   | 支援の種類                 |
|---|-----------------------|
| 1 | 施設、設備の整備・補修。そのための資金援助 |
| 2 | 人材の派遣（相談員や助っ人など）      |
| 3 | 社会的周知（広報）             |
| 4 | 子どものニーズへの対応           |
| 5 | 当主への情報提供              |
| 6 | 研修                    |

# 8.子どもの自立教育をどう進めるか？

地域の中は、子どもの自立教育を進める資源がそろっています。これを生かしてどう進めたらいいのか。

## (1)地域全体を子どもの生活体験センターに

今の教育といえば、学校・塾を主舞台とした知育偏重の受験教育で、自立のための各種体験や訓練はなおざりにされています。児童館はこの授業の推進役として、地域の様々な資源を掘り起こし、自立教育のいずれかを担ってもらうように働きかけていくことはできないか。

例えば電気店は電気の知識、スーパーは買い物実習、銀行は金融教育など、それぞれが業種特有の「モチ屋」の腕を発揮してくれればいい。また保育園は保育実習、老人ホームは介護実習、シルバー人材センターは生活の基本的な技術—行儀作法や裁縫等の教育、公民館も調理実習を担当と、特別な設備を整える必要はありません。

### ①自立訓練を担う機関

|   | 自立訓練機関  | 自立訓練項目   |
|---|---|--|
| 1 | 児童館   |  |
| 2 | 学校（塾）   |  |
| 3 | 子ども会（育成会）                                     |  |
| 4 | ボーイ・ガールスカウト<br>YMCA<br>ジュニアリーダー               |  |
| 5 | 企業<br>銀行<br>電気店<br>レストラン<br>スーパー<br>ホテル<br>農家 | 就労体験<br>金融教育<br>電気の知識<br>調理実習・食育<br>買い物体験<br>接客術<br>農業体験 |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 6 | 公共施設、団体<br>寺社<br>病院<br>老人ホーム<br>いのちの電話<br>シェルター | 市民の義務や受けられるサービスについて<br>死の教育、悲しみの教育<br>看護実習、死の教育、保健教育<br>シニア体験、看護実習<br>自殺予防<br>DV、虐待 |
|---|---|---|

## ②子どもの自立訓練のメニュー

自立訓練といえば経済体験や生活体験などをイメージしますが、ほかにも大事なものがあります。肉親を失った時、「グリーフワーク」が必要になります。「死」の学習も欠かせません。

|    | テーマ            | 訓練内容の例   |
|----|----------------|--|
| 1  | 悲しみを乗り越える学習    | 「グリーフワーク」講座。家族の死を体験した生徒による報告会の開催。カウンセリング講座の開催                                |
| 2  | 社会・経済体験学習      | 企業での就労・現場実習の斡旋。父親の職場参観日企画。アルバイト先斡旋。先輩招き自主講座。選挙体験の主催                          |
| 3  | 生活学習           | 専門学校生徒を講師に招いて、簿記入門講座、家計簿のつけ方や不動産・保険・ローン等を含む「家庭運営セミナー」の開催。木工が得意な生徒を講師にDIY講座開催 |
| 4  | 結婚学習・夫婦体験      | 模擬結婚式の開催。夫婦体験セミナーの開催。恋愛セミナーの開催「愛するとは？」                                       |
| 5  | 人間関係学習         | 友だちづくりやグループづくりセミナーの開催・相談。人間関係に悩む生徒の相談。リーダーシップ体験セミナー                          |
| 6  | 死の学習           | 「死学」入門講座の開催。葬儀・墓の見学会。霊研究の生徒を講師に「あの世はあるか？」シンポジウムの開催                           |
| 7  | 高齢者・障害体験学習     | 高齢者体験・障害体験センターを校内に。体育に組み込む。障害者や高齢者を講師に「障害とは？」講座の開催                           |
| 8  | セルフヘルプ・グループづくり | 親が離婚した生徒や障害のある兄弟をもつ生徒などのセルフヘルプ・グループづくりセミナー・相談・支援活動                           |
| 9  | 健康学習           | 医師を招いて医療入門講座。健康診断の実施。血圧などの測定実習。禁煙講座。ビデオ素材に「からだセミナー」開催                        |
| 10 | 食生活学習          | 弁当作りの実習。「弁当の日」を設ける。栄養士を招いて「青年期の食生活」講座  |

## (2)「助けられ上手の子ども」育て

子どもが自分の身を守るためにまず習得しなければならないのが、いじめられた時、周囲の者なり先生に助けを求めることです。そのためにはいざという時に助けてもらえる人を確保しておかねばなりません。以下のような授業が考えられます。

### ①「助けられ上手」の授業

|   | 学習項目                    | 内容                                     |
|---|-------------------------|--|
| 1 | みんなで「助けて～！」の練習          | 困った時はいつでも、気軽にこの言葉が出るように、クラスなどで実践しておく   |
| 2 | 困った時、助けてもらう実践           | 実際に困った時、SOSを発信する実践を。いじめられた時、親に虐待された時など |
| 3 | 困った時に助けてくれる人を何人か確保しておく  | 友だち、家族、親せき、ご近所の人、学校の教師、専門家、こども110番の家   |
| 4 | 自分が抱えている問題を打ち明ける練習      | 自分なりの打ち明け方を体得する                        |
| 5 | 「助け合い」ゲーム               | 「さわやか福祉財団」作成                           |
| 6 | 「どんな時に助けを求めますか？」—を考えさせる | 授業、部活、家庭など状況によって「どんな時に？」               |

### ②学習教材（テキスト）の内容例

「助けられ」を生徒に習得させるためのテキストが必要です。以下にいくつかを示してあるので、これを参考にして各自、独自のテキストを作ったらいいでしょう。

#### ①いざという時助けてもらう相手を記入しておこう

|   | 助けてくれる人 | どういう場合に？ | 連絡先 |
|---|---------|----------|-----|
| 1 |         |          |     |
| 2 |         |          |     |
| 3 |         |          |     |

## ② 「困った時相談にのってくれる機関」一覧

子どもはまず知らないだろうから、教えながらこれに記入させていきます。

|   | 相談機関    | 相談にのってくれるテーマ | 連絡先 |
|---|---------|--------------|-----|
| 1 | 子ども電話相談 |              |     |
| 2 | 児童相談所   |              |     |
| 3 |         |              |     |

## ③ 「助け合い友だち」づくり

困った時に助け合いができる友達を、自分が所属しているグループごとにたくさん作っておきます。

|    | 所属グループ      | 助け合い友だち | 連絡先 |
|----|-------------|---------|-----|
| 1  | 自分のクラス      |         |     |
| 2  | 他のクラス・他の学年  |         |     |
| 3  | 子ども会        |         |     |
| 4  | 学童クラブ       |         |     |
| 5  | 児童館         |         |     |
| 6  | 部活          |         |     |
| 7  | 委員会         |         |     |
| 8  | 生徒会、児童会     |         |     |
| 9  | ボーイ・ガールスカウト |         |     |
| 10 | JRC         |         |     |

#### ④こんな時にSOSを！

人に助けを求めるのはどういう困った事が生じた時なのか。部活や家庭など、状況によって異なります。こういう風に具体的な事例を頭に入れておけば、「その時」の役に立つのです。

|   |      | こんな時に  |
|---|------|--|
| 1 | 部活   | ①みんなについていけないと思った時<br>②先生の言う事が分からない時<br>③先輩にいじめられている時<br>④体調が悪い時<br>⑤部活をやめたいと思った時   |
| 2 | 教科   | ①友達がいじめられているのを見つけた時<br>②先生の教え方がおかしいと思った時<br>③自分が先生に嫌われていると感じた時<br>④授業で分からないことができた時 |
| 3 | 委員会  | ①生徒が自主的に企画した活動に学校側がクレームをつけた時<br>②活動中に問題を抱えた子どもに出会った時                               |
| 4 | 行事   | ①参加できない事情が生じた時<br>②またはそういう子どもを見つけた時  |
| 5 | 子ども会 | ①運営や活動のあり方に疑問が生じた時<br>②自分が活動についていけないと感じた時  |
| 6 | 家庭   | ①自分や兄弟が虐待を受けている時<br>②夫婦喧嘩が危険な状態にエスカレートした時  |

#### ⑤あなたの助けられ上手度を測る

自分は助けられ上手なのか下手なのか—を測る一定の目安を挙げてあるので、これにどれぐらい該当するのか、自己評価してみましょう。

|   | 助けられ上手の要件              |
|---|------------------------|
| 1 | 人の親切は素直に受けられる          |
| 2 | 助けられたら、ちゃんと「ありがとう」と言える |
| 3 | 自分の病気や悩みなどを人に話せる       |

|    |                                  |
|----|----------------------------------|
| 4  | 寂しい時「寂しい！」と、困った時は「困った！」と周りの人に言える |
| 5  | 「助けて」と気軽に言える相手がいる                |
| 6  | 自分が望んでいることを主張できる                 |
| 7  | 人が困った時、すすんで助けてあげるようにしている         |
| 8  | 仲のいい友だちや身近な大人の中に世話焼きさんもいる        |
| 9  | クラスや部活で仲間同士、助け合っている              |
| 10 | 子どもの相談機関などの連絡先を知っている             |

#### ⑥助け合い記録

実際に助けてもらった時のことを記録に残しておきます。そのとき、助けられるばかりではダメで、自分も人を助けておかねばなりません。その両方の実践を記録しておきます。

| 年月日 | 「助け」実践記録 | 「助けられ」実践記録 |
|-----|----------|------------|
|     |          |            |

---

**住民流福祉総合研究所**  
**木原孝久**

〒350-0451  
埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 1 4 7 6 - 1  
TEL049-294-8284  
kiharas@msh.biglobe.ne.jp  
<http://juminryu.web.fc2.com/>

---